

施策評価シート(令和3年度)

(基本施策の大綱) 1. 快適さを支える生活基盤の向上

(基本施策) (4)道路の保全・整備

(評価担当者)

建設部長 松田 昇

■基本施策が目指す姿

市民が、保全・整備された道路を利用して、安全で快適に生活を送っています。

■関連する分野別計画

■成果指標

		単位	現状値		実績値					目標値
					H29	H30	R1	R2	R3	
1	都市計画道路の整備率	%	58.1	H27	58.1	61.9	65.1	65.1	65.1	70.0
2	市道の改良延長	km	-	H27	0.17	0.17	1.07	1.4	1.7	2.5
3	橋梁の耐震化率	%	45.5	H27	46.4	48.2	51.8	57.4	57.4	50.0
4	道路環境美化ボランティア活動団体数	団体	9	H27	10	11	13	14	13	14
5										

■市民アンケート調査

項目		現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1	国道などの幹線道路が整備されている	重要度 1.21	1.18	1.19	幹線道路の整備、生活道路の整備とも重要度は高く、満足度も前回と概ね同じである。 これまでの取り組みの成果は表れているものの、さらに施策を展開することで、満足度を向上させていく必要がある。
		満足度 0.31	0.31	0.30	
2	生活に身近な道路が整備されている	重要度 1.35	1.32	1.32	
		満足度 0.28	0.26	0.27	
3		重要度			
		満足度			
4		重要度			
		満足度			
5		重要度			
		満足度			

■総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
A 順調に進んだ	「幹線道路の整備」、「生活道路の充実」及び「道路の適切な維持管理」については、順調に推進できており、個別判定をAとした。「安全に配慮した道路整備」については、工事が繰越となったが安全に配慮した道路整備はまずまず進んだことから個別判定をBとした。地域高規格道路の鈴鹿亀山道路が令和4年度に県より事業化されること、狭隘な生活道路の解消、橋梁の補強工事の実施やボランティア団体との協働による適切な維持管理が行われたことなど、これらを踏まえ総合判定をAとした。

反省点・課題

魅力的な道路網の構築と市内外をつなぐ広域幹線道路については、関係機関と連携し、整備の実現に向けた取り組みを行っていく必要がある。市内道路の整備については、災害に強い住環境の構築に重要な役割を果たすことから、幹線道路との接続道路や、防災上及び交通安全上の整備が必要な道路の整備に取り組む必要がある。また、持続可能な道路の保全・整備が効率的・効果的に行えるよう、地域やボランティアとの協働による推進について、これまでの取り組みの課題を整理し、今後の取り組み方の検討を行う必要がある。

今後の展開方針

広域幹線道路の早期整備に向けた取り組みを関係機関と連携して展開するとともに、事業計画の見直しを適宜行い、周辺状況に応じた市内環状道路の整備を推進する。また、地域の実情に応じた道路拡幅などの道路改良に取り組み、災害に強い生活道路の整備を行うとともに、道路の維持管理については、事後保全修繕ではなく予防保全ができるよう、点検や修繕の平準化など計画的な維持管理に努める。橋梁長寿命化の対象橋梁については、橋梁修繕と耐震化を一括施工できるよう、計画を策定する。地域や道路美化ボランティア団体等との協働による道路環境美化に努めるとともに、広報や市ホームページ等で積極的な啓発を行い、取り組みの一層の拡充を図る。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向① 幹線道路の整備						
(個別判定)	活動	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】	評価	【左記の活動により、施策は推進できたか】		
A	順調に進んだ	歩道計画において、地域に整合した設計見直しを実施した。また、市内環状道路の整備工事として、亀山市斎場線と国道1号亀山バイパス側道との一部区間L=160mで工事に着手した。また、鈴鹿亀山道路について、県と連携して期成同盟会等を通じた要望活動を行った。		市内の幹線道路の整備は、本市にとって交通渋滞の緩和、「人・もの・情報」を運ぶ幹線道路の果たす役割は重要である。また、地域に整合した設計見直しを実施するなど、財源を含めた実現性・地域性を検討した上で事業促進がまずまず進んでいる。一方、鈴鹿亀山道路が令和4年度から事業化されるなど、広域道路網の整備促進につなげることができた。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17015	都市計画道路整備事業(和賀白川線)	主	44,124 / 44,112	B	B
事業以外の取組	内容				活動	成果

施策の方向② 生活道路の充実						
(個別判定)	活動	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】	評価	【左記の活動により、施策は推進できたか】		
A	順調に進んだ	道路の安全性や防災機能を向上させるため、歩行空間の確保、狭隘道路の改善や地域の実情にあった生活道路の改良として L=270mの工事を実施した。また、路線単位での中心線立会を4路線実施するとともに、個人単位では、48件の申請を受け、31件の後退用地を取得し、道路後退の事業の進捗を図った。		道路利用者の安全性や利便性の向上を図る上で、生活道路の整備は重要である。その様な観点からも、交通上のネック箇所、緊急車両対応、視距危険個所の解消が図れている。また、狭隘道路については、一般申請による寄附件数が、指標の計画値を上回るなど、狭隘な生活道路の解消が図れており、生活道路の充実は順調に進んでいる。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17017	狭隘道路後退用地整備事業	主	13,500 / 13,237	A	A
	8075	市単道路整備事業	標	45,693 / 44,413	A	A
	8206	山下8号線整備事業	標	15,290 / 15,226	A	A
事業以外の取組	内容				活動	成果

施策の方向③ 安全に配慮した道路整備						
(個別判定)	活動	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】	評価	【左記の活動により、施策は推進できたか】		
B	まずまず進んだ	PTA等から要望のあった通学路の整備を7箇所実施し、通学路における安全性の向上を図った。 平成23年度策定の橋梁耐震化補強事業計画に基づき、耐震補強詳細設計(羽若橋)を計画的に実施し、震災時に重要となる道路に架かる橋梁の耐震補強を図った。		工事は繰越となったが、各地の防災拠点や避難地を連絡する道路に架かる橋の耐震化により、大災害発生時における人命の安全、被害拡大防止、災害応急対策を円滑に図ることができ、安全に配慮した道路整備は、まずまず推進できている。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17024	橋梁耐震化補強事業	主	2,100 / 2,079	B	B
	8078	施設整備費(交通安全施設費)	標	33,713 / 33,713	A	A
事業以外の取組	内容				活動	成果

施策の方向④ 道路の適切な維持管理						
(個別判定)	活動	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】	評価	【左記の活動により、施策は推進できたか】		
A	順調に進んだ	平成26年度策定の舗装維持管理計画に基づき、舗装修繕(市道川崎白木線ほか1線)を実施した。令和元年度策定の橋梁長寿命化修繕計画に基づき、下万寿寺橋の補修工事を実施するとともに、59橋の健全度橋梁点検を行った。また、道路美化ボランティア団体等(13団体)との協働による道路環境美化に取り組んだ。		道路、橋梁ともに予防保全型の考え方を取り入れ、劣化の現状を把握し、計画的に修繕を行うことで、効率的・効果的な維持管理に努めるとともに、損傷が軽微なうちに修繕を行うことでトータルコストの削減を図ることができた。また、道路美化ボランティア団体は増加しており各団体との協働による道路の環境美化に努めることができ、道路の適切な維持管理は順調に進んでいる。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17018	橋梁長寿命化修繕事業	主	32,750 / 32,749	B	B
	17019	舗装老朽化対策事業	主	91,319 / 90,111	B	A
事業以外の取組	内容				活動	成果